



2026年3月期第1四半期決算説明会

株式会社SUBARU

代表取締役社長 CEO 大崎 篤

2025年8月7日

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

皆さま、こんにちは。SUBARUの大崎でございます。

本日はお忙しい中、株式会社SUBARU 2026年3月期第1四半期 決算説明会にご参加いただき、誠に有難うございます。

また平素は、弊社の事業活動に、多大なるご理解、ご支援を賜り、重ねて御礼を申し上げます。

- 追加**関税影響**に対する不透明感は一定程度払拭されるも、依然として**大きな影響**
- 26年3月期見通し：**営業利益2,000億円**、株主還元：**自己株式取得500億円**（上限）
- **全社一丸でオポチュニティを捉え**、今期収益を最大化
- **米国市場へのコミットメント**は不変
- 変化の激しい事業環境を踏まえた**将来ビジョンの検討**



<https://www.subaru.co.jp/ir/>

2

私からは、事業環境の変化をどのように捉え、成長へとつなげていくか、についてお話しします。

まず、このたびの日米間での関税交渉の合意につきましては、日本政府の皆様の多大なるご尽力に敬意を表するとともに、心より感謝申し上げます。当社ビジネスにおける追加関税の不透明感は、一定程度払拭されましたが、米国での販売台数が全体の7割を超える当社においては、依然として大きな影響が残ります。

前回発表では、今期見通しを未定とする中で、「年度を通じて関税影響を受けた場合でも、営業利益1,000億円レベルを目指す」としました。また、自己株式取得については、実施の判断を保留しておりました。

今回の発表では、関税交渉の進捗を踏まえ、2026年3月期見通しを営業利益2,000億円とし、自己株式取得も500億円を上限に実施します。

通期見通しの達成に向けては、オポチュニティを確実に捉えるだけでなく、自ら創造し、生産および販売台数の積み上げ、売上構成の改善、生産性向上による費用圧縮や原価低減などに、全社一丸となって取り組みます。

自己株式の取得については、日米関税交渉に一定の目途が立ったことから、実施を決定しました。

株主の皆様におかれましては、この度の決定に至るまでの間、多大なるご理解を賜りましたこと、あらためて厚く御礼申し上げます。

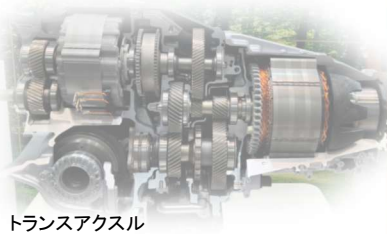
また、これまでブランドを築き上げてきた米国を、引き続き重要市場と位置付ける方針に変わりはありません。

当社の企業規模を活かした機動的かつ柔軟な経営判断により、健全な成長につながる日米投資のあり方も検討して参ります。

足元の厳しい状況をチャンスと捉え、さらなる変革を推進します。また、現在、変化の激しい事業環境の中でも揺るがない、強靱な収益基盤の構築につながる、「将来ビジョン」についても検討を進めています。

環境規制や需要動向の変化を踏まえた生産戦略の柔軟性向上

- HEVユニットの生産能力増強（2027年 30万台弱レベルへ）
- ICE車の生産比率の引き上げ
- BEV販売比率50%は2030年以降
- 電動化投資1.5兆円のタイミングや内訳の見直し



トランスアクスル



フォレスター（ストロングハイブリッドモデル）

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

3

本日は、その「将来ビジョン」の発信に先立ち、
足元の需要動向などを踏まえた、当社の対応についてお話しします。

強靱な収益基盤の構築には、「柔軟性」と「拡張性」を兼ね備えた生産戦略が不可欠です。
まずは、環境規制の変化や、
グローバル市場におけるハイブリッド車の需要の高まりを踏まえた
生産体制の整備を進めます。

具体的には、北本工場において、ハイブリッド車に搭載するトランスアクスルの生産能力を、
2027年には、年間30万台弱の水準まで増強します。

さらに、2030年に向けては、ハイブリッド車の生産能力を一層強化し、
ICE車の生産比率を引き上げることを検討しています。

なお、新体制方針で公表したバッテリーEVの販売比率50%の到達時期については、
2030年以降になると見込んでいます。

加えて、電動化投資1.5兆円についても、
投資タイミングや内訳について見直しの検討を深めています。
今後も事業環境の変化を的確に捉え、機動的かつ柔軟に投資を判断していきます。

将来ビジョンにつきましては、改めて発信の機会を設ける予定です。
引き続きご期待いただけますよう、よろしくお願いいたします。

以上、私からの説明とさせていただきます。ありがとうございました。



2026年3月期第1四半期決算説明会

株式会社SUBARU

取締役常務執行役員 CFO 戸田 真介

2025年8月7日

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

皆さま、こんにちは。SUBARUの戸田でございます。

■ 第1四半期実績

- 生産台数: **247千台** (対前年3.3%増) / 連結販売台数: **244千台** (対前年15.1%増)
フォレスターやクロストレックなどの好調な販売
- 営業利益: **764億円** (対前年16.2%減)
連結販売台数の増加と販売奨励金の抑制を両立
米国追加関税の影響は、第1四半期半ばから本格化

■ 通期見通し

- 生産台数: **900千台** / 連結販売台数: **920千台**
バッテリーEVの自社生産に向けた工事による生産制約があるものの、
市場間、車種間で機動的に出荷調整を行い高効率な販売を実現
- 営業利益: **2,000億円** (対前年50.7%減)
追加関税の通期影響2,100億円、生産台数減や円高影響もあるが、
生産性向上による費用圧縮、売り上げ構成の改善、原価低減などで打ち返し収益を最大化

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

5

初めに、2026年3月期、第1四半期のポイントについて説明します。

第1四半期の生産台数は、前年比3.3%増の24万7千台、連結販売台数は同15.1%増の24万4千台となりました。

フォレスターやクロストレックなどの売れ行きは好調、新たに投入したハイブリッド搭載車は、お客様から評価を頂いております。

営業利益は、764億円の実績となりました。連結販売台数の増加と販売奨励金の抑制を両立させたことが寄与しています。なお、米国追加関税の影響は、第1四半期半ばから本格化しました。

続きまして、通期見通しです。

生産台数については、前回計画値から変更ありません。

連結販売台数については、市場間、車種間で機動的に出荷調整を行うことで高効率な販売を実現し、92万台を目指します。

この度、営業利益2,000億円を、今年度の見通しとして公表させて頂きました。

なお、追加関税影響として、9月1日から自動車関税が15%に軽減される前提で2,100億円を見込みます。

2026年3月期 第1四半期実績

第1四半期実績 生産台数・連結完成車販売台数

(千台)

	2025年3月期 1Q実績	2026年3月期 1Q実績	増減
米国生産	96	94	-2
国内生産	143	152	+10
生産台数* 合計	239	247	+8

	2025年3月期 1Q実績	2026年3月期 1Q実績	増減
連結完成車販売台数 合計	212	244	+32

* トヨタ向けGR86の台数を含む

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

7

続きまして、2026年3月期 第1四半期実績をご説明します。

生産台数は、前年同期比8千台増の24万7千台となりました。

国内生産は、生産ペースを落としていた前年同期に対し、当第1四半期はほぼ計画通りに進捗し、1万台増。米国生産は、カナダ向け車両の一部を、国内生産へ機動的に変更し、前年同期比2千台減となりました。

連結販売台数は、出荷・販売が堅調に進捗、前年同期比3万2千台増の24万4千台となりました。

第1四半期実績 連結完成車販売台数（市場別）

（千台）

	2025年3月期 1Q実績	2026年3月期 1Q実績	増減
登録車	20	20	-0
軽自動車	3	4	+1
国内合計	23	24	+1
米国	147	171	+25
カナダ	18	19	+0
欧州	6	5	-0
豪州	9	15	+5
中国	0	1	+0
その他	8	9	+1
海外合計	189	220	+31
合計	212	244	+32

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

8

続きまして、市場別の連結販売台数実績です。

市場別では、海外市場での販売台数が大きく増加しました。

うち、主要市場の米国は、フォレスターやクロストレックを中心に販売が伸長、前年同期比2万5千台増の17万1千台となりました。

なお、米国の小売台数については、4月の追加関税発動の後、第1四半期の需要はボラティルに変動したものの、7月は堅調に推移しました。

第1四半期実績 連結業績

(億円)

	2025年3月期 1Q実績	2026年3月期 1Q実績	増減
売上収益	10,921	12,141	+1,220
国内	1,503	1,551	+48
海外	9,418	10,590	+1,172
営業利益	911	764	-147
税引前四半期利益	1,080	785	-296
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	840	548	-292
為替レート US\$	¥153	¥146	-¥7
EURO	¥164	¥162	-¥2
CAN\$	¥112	¥104	-¥9

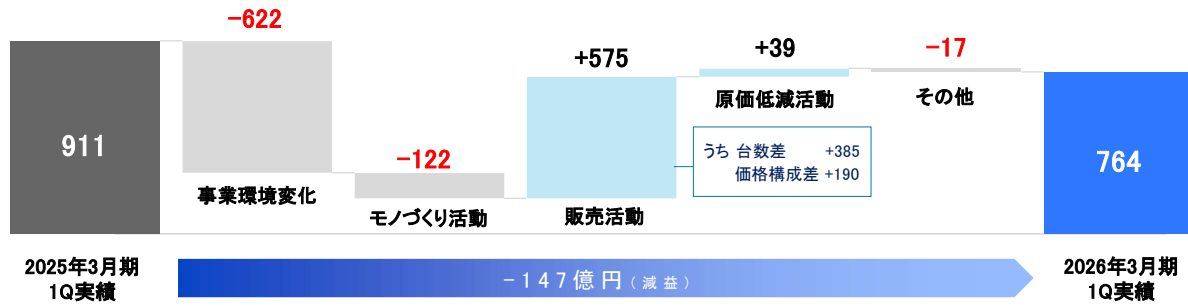
<https://www.subaru.co.jp/ir/>

9

続きまして、連結業績です。

売上収益は、円高進行に伴う減収影響があったものの、販売台数の増加、販売価格の改定、販売奨励金の抑制等により、前年同期比1,220億円増となる1兆2,141億円となりました。

営業利益は、前年同期比147億円減の764億円、税引前四半期利益は296億円減の785億円、親会社の所有者に帰属する四半期利益は、292億円減の548億円となりました。



事業環境変化	-622	モノづくり活動	-122	販売活動	+575	原価低減活動	+39	その他	-17
為替影響	+76	製造固定費	-9	台数差・価格構成差	+575	原価低減	+39	保証修理費	-172
・売上仕入レート差	-335	研究開発費	-113	販売奨励金	+11			その他経費	-37
・期末日レート差	+182			販売関連費	-10			上記以外	+192
・未実現利益分	+229			部品用品	-31				
原材料・市況	-142			自動車その他利益	+30				
米国追加関税影響	-556								

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

10

続きまして、営業利益の対前年実績 増減要因です。

為替変動や原材料・市況変動、米国の追加関税影響などの、当社を取り巻く事業環境の変化により、622億円減少しました。

「モノづくり活動」では122億円減少しましたが、今後導入する新商品の研究開発費の増加が主な要因です。

「販売活動」では、販売台数の増加と販売奨励金の抑制の両立、価格改定などにより、575億円増加しました。

なお、米国市場向けの販売奨励金は、300ドル減の台当たり1,750ドルとなりました。

キャッシュフロー / 手元資金状況

(億円)

	2025年3月期 1Q実績	2026年3月期 1Q実績	
営業活動によるCF	400	1,472	
投資活動によるCF	-745	-1,020	
フリーCF	-346	452	
財務活動によるCF	-879	-665	
現金及び現金同等物の為替影響額	294	-106	
	2025年3月末	2025年6月末	増減
定期預金含む現金及び現金同等物 (A)	15,897	15,492	-404
内、現金及び現金同等物	9,415	9,095	-319
定期預金	6,482	6,397	-85
有利子負債 期末残高* (B)	3,995	3,910	-85
定期預金含むネットキャッシュ(A-B)	11,902	11,582	-319

*リース負債は上記の実績に含んでおりません。

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

11

続きまして、キャッシュフローおよび手元資金の状況です。

営業活動によるキャッシュフローは1,472億円、
投資活動によるキャッシュフローは-1,020億円となり、
その結果、フリーキャッシュフローは452億円となりました。

定期預金を含む現金及び現金同等物は、前期末に対し404億円減となる1兆5,492億円、
有利子負債残高は、前期末に対し85億円減の3,910億円となりました。
その結果、定期預金を含むネットキャッシュは、
前期末に対し319億円減の1兆1,582億円となっております。

設備投資・減価償却費・研究開発支出

(億円)

	2025年3月期 1Q実績	2026年3月期 1Q実績	増減
設備投資 * 1	435	351	-84
減価償却費 * 1	249	231	-18
研究開発支出 * 2	308	346	+38

*1 リース取引および無形資産に係る設備投資、減価償却費は上記の実績に含んでおりません。

*2 報告期間中に発生した研究開発活動に係る支出額を記載。

尚、IFRSでは当該支出のうち資産性の認められる一部の支出を無形資産として計上し、見積耐用年数に基づき償却するため、連結損益計算書上の「研究開発費」と異なります。(日本基準における連結損益計算書上の研究開発費と一致)

設備投資などの実績については、ご覧の通りです。

2026年3月期 見通し

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

通期計画 生産台数・連結完成車販売台数

(千台)

	2025年3月期 通期実績(a)	2026年3月期 前回計画(b) *2	2026年3月期 今回計画(c)	増減 (c)-(a)	増減 (c)-(b)
米国生産	345	-	-	-	-
国内生産	602	-	-	-	-
生産台数 *1 合計	946	900	900	-46	±0

	2025年3月期 通期実績(a)	2026年3月期 前回計画(b)	2026年3月期 今回計画(c)	増減 (c)-(a)	増減 (c)-(b)
連結完成車販売台数 合計	936	900	920	-16	+20

*1 トヨタ向けGR86の台数を含む

*2 2025年5月14日 発表値

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

14

続きまして、2026年3月期 通期計画についてご説明します。

生産台数は、前回計画から変更ありません。バッテリーEV生産に向けた工事による生産制約があるものの、他生産ラインでの挽回により、90万台を目指します。

連結販売台数は、ハイブリッド搭載車などの新型車導入や、機動的な出荷調整により、前回計画比2万台増の92万台とします。

通期計画 連結完成車販売台数（市場別）

（千台）

	2025年3月期 通期実績(a)	2026年3月期 前回計画(b)	2026年3月期 今回計画(c)	増減 (c)-(a)	増減 (c)-(b)
国内合計	104	-	110	+6	-
北米	732	-	725	-7	-
北米以外	101	-	85	-16	-
海外合計	832	-	810	-22	-
合計	936	900	920	-16	+20

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

15

続きまして、市場別の連結販売台数計画です。

国内市場は、前年比6千台増の11万台を計画、

北米市場は、前年比7千台減となる72万5千台を計画、

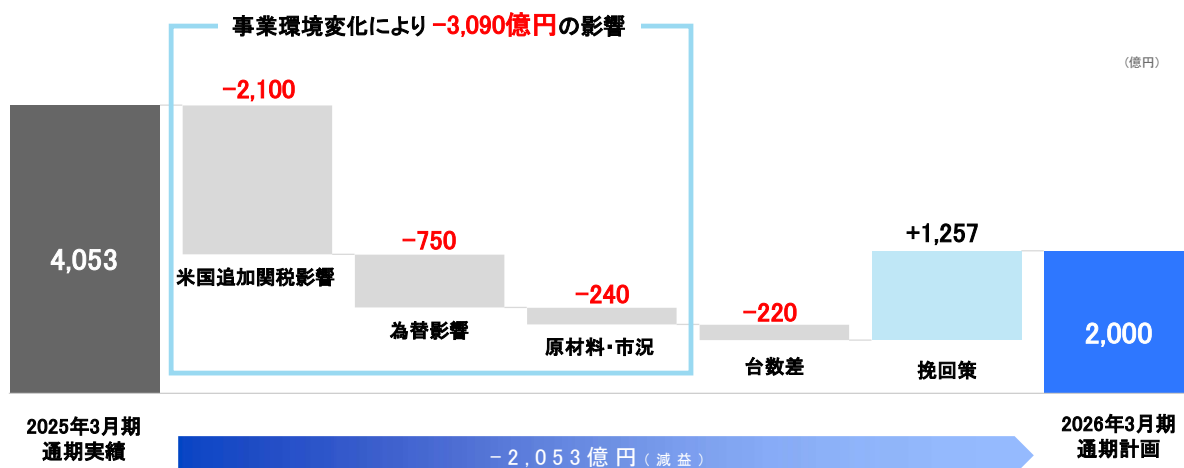
なお、2025年暦年の米國小売販売につきましては、在庫車両の活用も行いながら、従前発表した67万5千台の目標達成を目指します。

	2025年3月期 通期実績	2026年3月期 通期計画	増減
売上収益	46,858	45,800	-1,058
国内	6,514	-	-
海外	40,344	-	-
営業利益	4,053	2,000	-2,053
税引前利益	4,485	2,300	-2,185
親会社の所有者に帰属する 当期利益	3,381	1,600	-1,781
為替レート US\$	¥152	¥145	-¥7
EURO	¥162	¥155	-¥7
CAN\$	¥110	¥100	-¥10

続きまして、連結業績です。

前回計画では、売上収益、各段階利益ともに「未定」としておりましたが、
今回、売上収益は4兆5,800億円、
営業利益は2,000億円、
税引前利益は2,300億円、
親会社の所属者に属する当期利益は1,600億円を計画します。

前年実績対比
通期計画 営業利益増減要因



<https://www.subaru.co.jp/ir/>

17

続きまして、前年実績対比の営業利益増減要因です。

事業環境の変化により、前年比3,090億円の減少を見込みます。うち、米国追加関税による影響は、9月1日から自動車関税が15%に軽減される前提での見込みです。
また、台数差により220億円の減少を見込みます。

これらの減益影響に対し、計1,257億円の挽回を図り、営業利益2,000億円の達成を計画します。

設備投資・減価償却費・研究開発支出

(億円)

	2025年3月期 通期実績(a)	2026年3月期 前回計画(b)	2026年3月期 今回計画(c)	増減 (c)-(a)	増減 (c)-(b)
設備投資 * 1	1,761	未定	2,500	+739	-
減価償却費 * 1	968	1,000	1,000	+32	±0
研究開発支出 * 2	1,600	1,400	1,600	+0	+200

* 1 リース取引および無形資産に係る設備投資、減価償却費は上記の実績に含んでおりません。

* 2 報告期間中に発生した研究開発活動に係る支出額を記載。
尚、IFRSでは当該支出のうち資産性の認められる一部の支出を無形資産として計上し、見種耐用年数に基づき償却するため、連結損益計算書上の「研究開発費」と異なります。(日本基準における連結損益計算書上の研究開発費と一致)

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

18

続きまして、設備投資・減価償却費・研究開発支出です。

設備投資は2,500億円の計画とします。こちらには、主力車種フォレスターの米国生産化に伴う投資、バッテリーEVの自社生産に向けた矢島工場への投資が含まれています。
研究開発支出は、短中期での商品ラインナップを拡充していくため、前回比200億円増の1,600億円に変更します。

株主還元

(円)

	2025年3月期 実績	2026年3月期 予想
中間配当金	48	57
期末配当金	67	58
年間配当金	115	115
自己株式取得	500億円(上限)	未定

* 自己株式取得により、2025年3月期の総還元性向は40%

自己株式の取得

取得株数	2,084万株(上限)
取得金額	500億円(上限)
取得期間	2025年8月8日～2025年12月23日(予定)

* 取得した自己株式は全数消却予定

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

19

最後に、株主還元についてです。

実施判断を保留していた2025年3月期の自己株式取得については、日米関税交渉に一定程度の目途が立ったことから、500億円を上限に自己株式の取得を行います。

本件は、株主還元方針で掲げる総還元性向40%に則るものです。

株主の皆様におかれましては、関税影響の不透明感から実施判断保留につきご理解を賜り、有難うございました。

今回、方針通りに、株主還元を実施させていただきます。

また、2026年3月期の1株当たり配当は、前回発表の年間115円予想となっております。

次ページ以降は、セグメント情報等の参考情報となります。

以上で2026年3月期 第1四半期決算の説明を終わります。

ありがとうございました。

ご参考

- ・ セグメント情報（事業別 / 所在地別）
- ・ 海外売上収益
- ・ 連結財政状態計算書
- ・ 単独販売台数
- ・ 米国子会社業績
- ・ 2025年3月期実績及び2026年3月期実績
（四半期別）
- ・ 生産台数 / 小売台数 推移

第1四半期実績 事業セグメント情報

(億円)

	売上収益			営業利益		
	2025年3月期 1Q実績	2026年3月期 1Q実績	増減	2025年3月期 1Q実績	2026年3月期 1Q実績	増減
自動車	10,648	11,839	+1,191	919	741	-178
航空宇宙	261	288	+27	-26	3	+30
その他	12	14	+1	16	18	+3
消去・全社	-	-	-	3	1	-2
合計	10,921	12,141	+1,220	911	764	-147

自動車事業セグメント 営業利益（管理値）

（億円）

	2025年3月期 1Q実績	2026年3月期 1Q実績	増減
新車	502	375	-127
部品用品	364	311	-53
その他*	52	54	+2
合計	919	741	-178

* 金融、コネクト、中古車、整備による利益

第1四半期実績 所在地別セグメント情報

(億円)

	売上収益			営業利益		
	2025年3月期 1Q実績	2026年3月期 1Q実績	増減	2025年3月期 1Q実績	2026年3月期 1Q実績	増減
日本	2,116	2,586	+470	749	355	-394
北米	8,533	9,279	+746	449	187	-261
その他	272	276	+4	4	11	+7
消去・全社	-	-	-	-291	211	+502
合計	10,921	12,141	+1,220	911	764	-147

第1四半期実績 海外売上収益

(億円)

	2025年3月期 1Q実績	2026年3月期 1Q実績	増減
北米	8,663	9,610	+947
欧州	243	235	-8
アジア	100	82	-18
その他	412	663	+250
合計	9,418	10,590	+1,172

連結財政状態計算書

(億円)

	2025年3月末	2025年6月末	増減
資産合計	50,882	50,220	-662
流動資産	31,912	31,326	-587
非流動資産	18,970	18,895	-76
負債合計	23,725	23,267	-459
有利子負債	3,995	3,910	-85
資本合計	27,157	26,953	-204
利益剰余金	21,065	21,123	+58
親会社の所有する帰属持分	27,145	26,941	-204
親会社の所有者に帰属する持分比率	53.3%	53.6%	+0.3%
D/Eレシオ	0.15	0.15	-0.00

第1四半期実績 単独販売台数

(千台)

	2025年3月期 1Q実績	2026年3月期 1Q実績	増減
国内生産*	143	152	+10
国内売上	25	24	-1
登録車	22	19	-3
軽自動車	3	4	+2
輸出台数	109	128	+19
海外生産用部品	77	82	+4
単独合計売上	211	234	+23

* トヨタ向けGR86の台数を含む

第1四半期実績 米国子会社業績

(Million US\$)

SOA *1	2025年3月期 1Q実績	2026年3月期 1Q実績	増減
売上高	4,984	5,929	+945
営業利益	97	80	-17
当期純利益	111	100	-11
小売販売台数(千台)	169	154	-15
SIA *2	2025年3月期 1Q実績	2026年3月期 1Q実績	増減
売上高	2,768	2,733	-35
営業利益	125	50	-75
当期純利益	107	52	-55
生産台数(千台)	77	94	+18

*1 SOA: Subaru of America Inc. *2 SIA: Subaru of Indiana Automotive, Inc.

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

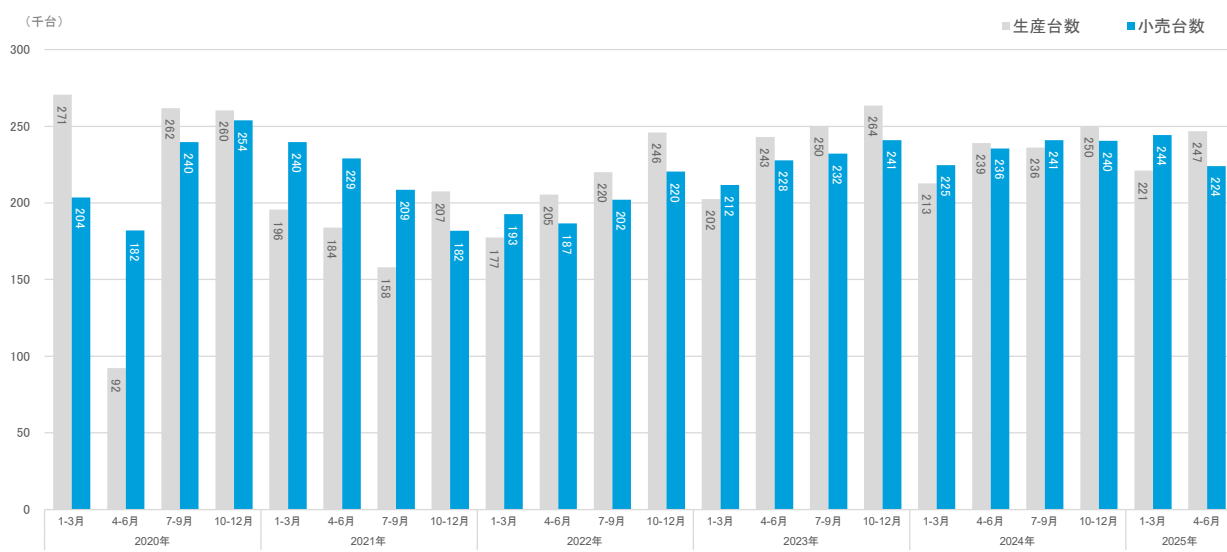
2025年3月期および2026年3月期実績(四半期別)

(億円)

	2025年3月期				2026年3月期
	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績	1Q実績
連結販売台数(千台)	212	238	258	229	244
生産台数*(千台)	239	236	250	221	247
売上収益	10,921	11,740	12,702	11,494	12,141
営業利益	911	1,309	1,472	362	764
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	840	790	1,544	207	785
為替レート US\$	¥153	¥154	¥149	¥154	¥146

* トヨタ向けGR86の台数を含む

生産台数／小売台数 推移



* 生産台数にはトヨタ向けGR86の台数を含む

<https://www.subaru.co.jp/ir/>



本資料に記載されている計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、現在入手可能な情報、予測に基づいた仮定、および判断であり、様々なリスクや不確実性を含みます。将来における当社の実際の業績は、当社を取り巻く経済情勢、需要や為替レートの変動などにより、これらと異なる結果となる場合がございます。投資に関する最終決定は、上記の点を踏まえ、投資家の皆様ご自身の判断で行われるようお願いいたします。本資料に掲載された情報に基づいて投資された結果、万一何らかの損害を被られましても、当社および各情報の提供者は一切責任を負いかねますので、併せてご了承ください。

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

30